

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大崎市立鹿島台第二小学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
 住所 〒989-4106
宮城県大崎市鹿島台大迫字寺沢40-1
 E-mail : osaki_kashimadai2@educ.osaki.miyagi.jp
 Website : _____
 児童生徒数：男子 34 名 女子 14 名 合計 48 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

大崎市立鹿島台第二小学校 活動報告

1 活動の柱

(1) 緑化栽培活動

地域の園芸専門店の指導を受けながら、3～6学年児童が、夏はマリーゴールド、秋からはビオラを種から育て、仮植、定植の一連の栽培活動（総合的な学習の時間で18時間を軸にして行う。

耕地内で栽培を続ける他、学校近くの老人介護施設や地区の公共施設（駅、病院、市役所）にも、育てた花のプランターを提供し持続可能な地域づくりに係わる。

(2) 絶滅危惧種飼育活動

環境省レッドデータブックで絶滅危惧種ⅠAに指定されている、鹿島台地域の在来種「シナイモツゴ」の里親学校として飼育に取り組む。飼育担当学年として、第4学年があたる。総合的な学習の時間（年間30時間）を使って、卵の孵化から稚魚、成魚に至るまでを1年間かけて飼育し、地域内のため池に放流して繁殖を試みる。

2 活動計画

(1) 緑化栽培活動について（教育計画～勤労生産・奉仕的活動～栽培活動計画から）

① ねらい

ア 花壇栽培活動を実践することにより、草花を大切に育てていく心を育てる。

イ 活動に当たって、協力や奉仕の心を育てる。

② 活動内容

ア マリーゴールドとビオラの播種（3～6年 2時間）

イ マリーゴールドとビオラの定植作業（全学年 4時間）

ウ マリーゴールドとビオラの撤去作業（全学年 2時間）

エ ビオラの仮植（3～6年 1時間）

③ 花壇栽培活動の年間予定

5/22(水) マリーゴールド播種（2時間目）

6/26(水) ビオラ撤去作業（2時間目）

7/3(水) マリーゴールド定植（2, 3時間目）

7/16(火) ビオラ播種（2時間目）

9/10(火) ビオラ仮植（2時間目）

11/6(水) マリーゴールド撤去作業（2時間目）

11/13(水) ビオラ定植（2, 3時間目）

④ 活動形態

ア 基本的には、縦割り班で行う

イ 7月3日（水）のマリーゴールドの定植のときに、縦割り花壇も定植する。デザインは6年生がする。

ウ 準備と活動の説明は、環境緑化部と環境委員会でを行う。

⑤ 活動上の留意点

ア 児童数の減少に伴い、地域や保護者に協力を訴えていく。

- イ 校門坂，玄関前のプランターの計画も立てる。
- ウ 鹿島台大迫ディサービスセンターのプランターの提供 … 3年生
- エ 鹿島台分院，鹿島台駅，鹿島台総合支所への提供 … 教頭

(2) 絶滅危惧種飼育活動について (総合的な学習の時間の全体計画～全体計画から抜粋)

① 目標

子供たちが，自然や人，ものと係わりながら自ら学び，自ら考え，自ら解決していく学習活動の展開をとおして，自分たちの力でよりよい家庭や学校生活をつくりあげるために，自分や自分たちの生き方について考え，向上していこうとする能力や態度を育てる。

② 本年度の努力目標 (抜粋)

地域の自然や暮らしへの興味・関心を高めさせながら，課題を発見する力や課題を解決する力を育てる。

③ 本活動のねらい

生命と係わる自然体験をとおして，自然についての驚きや自然との共生の大切さを感じると共に，生活と結びつけながら科学的なものの見方や問題解決能力を育てる。

④ 4学年の具体的な活動と身につけたい力

○ シナイモツゴに興味・関心をもつと共に，育てる活動をとおして身近な環境への関心を高め，それらを守ろうとする気持ちを育てる。

- ・ 鹿島台の伝統文化やシナイモツゴについて，自分なりに課題をもつことができる。
- ・ いろいろな調べ方がある事を知り，調べる学習を進めることができる。
- ・ 調べて分かったことを説明することができる。
- ・ 鹿島台の伝統文化やシナイモツゴを守ろうとする活動に積極的に取り組むことができる。
- ・ 自分たちが住んでいる地域のよさに気づき，守るためにできることに取り組もうとする。

3 活動の具体

(1) 緑化栽培活動

① マリーゴールド

○ マリーゴールドの播種 (5月22日 3年生～6年生)



マリーゴールドの種をまきます。

トに

ポツ
マリ

まず、ポットに小さな穴を3つ開け、細く小さい種を一穴に2つほど入れ、上にうっすらと土をかぶせます。

休み時間や放課後には、環境委員の児童が水やりをして、土が乾かないようにします。

○ マリーゴールドの定植（7月3日 全学年）



先ずポットを並べ、全体のバランスを整えます。その後、シャベルで花壇に穴を掘って、そこにポットから取り出した苗を植えます。最後にジョウロで、十分に水をあげます。保護者にも呼びかけて、一緒に作業をしました。

プランターに植えたものは、玄関脇に飾ったり、公共施設に寄付したりしています。

休み時間には、草取りをすることもありました。右側は、咲き誇った全景です。



○ マリーゴールド撤去（11月6日 全学年）



秋になったので、春花の準備をします。みんなで、マリーゴールドの花を抜いて片づけました。花壇全体が、更地になりました。

② ビオラ

○ ビオラの撤去（6月26日 全学年）

昨年植えたビオラは、1月から5月ごろまできれいに咲いていました。夏の花（マリーゴールド）を植えるため、ビオラを撤去しました。プランターからも外します。



○ ビオラの播種（7月16日 3年生～6年生）



ビオラは種が小さく、先ず、小さなポットで育てます。フォークを使って小さな穴を開け、そこに、根が出る方を下にして種をまきます。

○ ビオラの仮植（9月10日 3年生～6年生）



双葉が出たら大きめのポットに移植します。白いポットの下からは、根っこがはみ出るくらい大きく育っています。フォークを差して白いポットから苗を取り出し、黒いポットに移植します。

○ ビオラの定植（11月13日 全学年）



双葉だったビオラの苗も、かなり大きくなりました。花壇に植え替える作業です。事前に考えておいたデザインにしたがって、ポットを並べます。ポットを逆さにして苗を取り出し、花壇に開けておいた穴に植えます。



6生が、水をまいてくれています。花壇の余った所には、チューリップを植えました。



プランターには、上級生が土を入れてくれました。花壇への植えつけが終わった児童は、プランターにも植えます。1つのプランターに、ビオラを4個ずつ植えました。

このプランターは、玄関前に飾るほかに、大迫ディサービスセンターや鹿島台分院、鹿島台駅、鹿島台総合支所にプレゼントをして飾ってもらいます。（右の写真は、3年生がディサービスセンターまで、リヤカーで運んでいるところです。）



(2) 絶滅危惧種の飼育活動

① シナイモツゴの飼育 （一部、昨年の活動や写真を使用して紹介しています。）

※ 展示場所2カ所と飼育場所2カ所

玄関と4年生教室にガラスの水槽が置いてあります。自分たちで育てた成魚を飾っています。

外には、体育館前と校長室前に強化プラスチックの大きな水槽が2つあります。そこで、卵から孵化させ、稚魚を育てています。



○ 5月27日に、シナイモツゴ郷の会の方をお招きして、勉強会をしました。パンフレットやスライドを使って、シナイモツゴがたどってきた運命や、種を守ることの大切さを教えていただきました。



(学習後の児童の感想 : 自分たちでシナイモツゴを育て、川へ戻してあげたいです。ブラックバスや天敵をいなくさせて、シナイモツゴを全滅されないようにしたいです。)

- 6月に、シナイモツゴ郷の会の方から卵をもらい、外の水槽で育てました。4年生が中心になってお世話をしました。卵の中に先ず目ができて次第に動き始めたり、殻を破って孵化したりする様子を観察しました。



- 11月16日に大崎市合同庁舎で開かれた、「共同シンポジウム 水辺の自然再生・豊かな自然を次世代へ」へ参加し、代表児童が「里親小学校の取組」について発表しました。(原稿は、最終ページに掲載)

- 総合的な学習の時間を使い、飼育観察を続けてきました。2月10日には「校内発表会」を行い、学習してきたことのまとめをしました。

- 平成26年の春には、1年間育てたシナイモツゴを近くの沼に放流する予定です。

下の写真は、平成25年4月に行った、「シナイモツゴの引渡式」です。バケツの中にいるのが、体長3cmぐらいに成長したシナイモツゴの稚魚です。平成24年度には331匹を孵化させ育てました。



4 成果と課題

(1) 環境緑化活動において

① 成果としてあげられる点

- ・ 自分たちで種から植物を育て花壇一杯に咲き誇る花々の姿を見て、花と緑の学校であることへの誇りをもつようになった。
- ・ 地域の方々から、「花と緑が豊かな学校」という見方が定着してきた。
- ・ 毎年実体験を行っているので単なる知識ではなく、上学年ならば「種のどちらから根が出て、どちらを下にして植えるか」「どのような時期に、どのくらいの水やりが必要か」など専門的な知識をもつようになり、植物の栽培に高い関心を示すようになった。

- ・ 縦割り班で活動することにより，上学年が下学年の世話をするなど，思いやりの心を育むことができた。
- ・ 放課後の水やりや長期休業中の水やりを自分たちで当番を決めて実施するなど，緑化活動への意欲と責任感が育っている。

② 課題としてあげられる点

- ・ 地域の自然を守ろうとする態度が身につくような活動を，更に工夫していく必要がある。
- ・ 緑化体験活動を通して疑問に思ったことを更に探求する活動や，地域の関係者とのコミュニケーションを深める活動を工夫していきたい。

(2) 絶滅危惧種の飼育活動において

① 成果としてあげられる点

- ・ 地域の貴重種の存在を知ると共にその飼育活動を通して，その種を守り育てていこうとする気持ちが育っている。
- ・ 侵略的な外来生物の増加による被害や絶滅危惧種の存在を知ると共に，また，従来 of 自然種を守ろうという自然保護の活動や，保護増殖活動を行っている人々の活動に触れることができた。

② 課題としてあげられる点

- ・ シナイモツゴから活動を広げ，自然保護や自然を愛する態度が身につくような活動を，更に工夫していく必要がある。
- ・ 飼育体験活動を通して疑問に思ったことを更に探求する活動や，地域の関係者とのコミュニケーションを深める活動を工夫していきたい。

5 今後に向けて

E S Dアシストプロジェクトの助成金をいただき資金面を支えていただいたことは，活動を充実させねらいを達成するのに大きな助けとなりました。今後も活動内容を更に工夫改善し，E S Dの達成のために努力して参ります。

ご支援，誠にありがとうございました。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ ）